

# 第1学年西組 国語科学習指導案

学習指導者 片岡 亜貴子・支援員 内田 珠世

1 単元 「お話の音クイズでお気に入りの場面を紹介しよう ～『おとうとねずみチロ』～」

2 単元について

(1) 目指す子供の姿

## 【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

物語を読んでお気に入りの場面を友達に紹介するために、言葉による見方・考え方を働かせ、その場面を表す擬声語や擬態語を考えて、その言葉と理由を友達と交流する。そしてその中で登場人物の行動をより具体的に想像し、自分の考えを再考する。さらにそれを紹介し合うことで、他の本においても擬声語や擬態語を手掛かりに想像を広げながら読んでいる。

知識・技能

身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。

学びに向かう力・人間性等

言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

思考力・判断力・表現力等

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。

本単元では、お気に入りの場面の様子を表す擬声語や擬態語を考え、その擬声語や擬態語の音を「お話の音クイズ」として出題し、その音がどの叙述のどんな様子を表しているのかを考える言語活動を設定する。場面の様子や擬声語や擬態語を表すことで、叙述から想像したことを自分にとって身近な言葉に置き換えながら、登場人物の行動をより詳しく捉えていくことができると考える。クイズを作る際には、子供たちはお気に入りの場面の様子や背景の様子を表す擬声語や擬態語を複数考え、その中からクイズに出したい音の一つを選ぶ。そして友達との交流の中で、その音が表す場面の様子について叙述を基に想像を広げて具体化することで、お気に入りの場面の様子や背景の様子を表す音としてふさわしい擬声語や擬態語になるように吟味していく。例えば教科書教材『おとうとねずみチロ』では、チロが丘の上からおばあちゃんに叫んでいる場面から「ぴよんぴよん」という音を選んだ子供が、「僕は『ぴよんぴよん』をクイズにしようと思うんだけど、どうかな」と尋ねると、「(教科書の)『うれしがってとびはねると』の言葉のところで、チロがうれしくて何度も飛び跳ねている音かな」「そうだよ。自分の声がおばあちゃんに届いてうれしい気持ちを表している音だと思ったからだよ」「私は同じ言葉のところで、『にこにこ』という音を考えてよ」「なるほど、チロの顔が笑顔だったからだね。『にこにこ』もいいかもしれないね」などと叙述を基に想像を広げ、お気に入りの場面の登場人物の行動をより具体的に捉えていくのである。その後、自分が選んだ音とそれを選んだ理由を再考して、クイズを作る。教科書教材での学びを生かしながら自分が選んだ本でも並行してこのようなクイズを作っていく。さらにそれを紹介し合って相手のクイズの答えを考える際にも、子供たちはまず、クイズの擬声語や擬態語を見てどんな様子や背景の様子を表している音なのかを想像し、それがクイズの答えと合っているのかを確かめながら物語を読み進めていくのである。

(2) 子供の実態

メタ認知に関する実態調査によると、勉強の際に自分のしていることの見直しを苦手としている子供が35名中14名いることが分かった。また、教科に関する実態調査によると、友達との話し合いについて33名の子供は「もっといい考えが浮かぶ」「自分の考えが正しいか確かめることができる」等のよさを感じている一方で、13名は自分の考えに自信がない時でも自分から友達に尋ねようとしていないことが分かった。また、5名の子供たちは叙述を基に想像を広げて考えることが苦手であり、課題解決の際には個別支援を行う必要がある。

(3) メタ認知を促す働きかけ

### ① 課題設定以前

前時までの学びを振り返ることができるように、学習計画や話し合い活動の写真等を補助黒板に掲示しておくことで、単元を通しての目標や、それまでに見付けた学び方のよさ等を確認しながら、本時の学習課題を共有できるようにする。【きらきらコーナー】(2～15時間目)

### ② 課題解決中

お気に入りの場面について想像を広げて様々な擬声語や擬態語を考えることができるようにするために、目、耳、手等の感覚を考えの視点として示す。自分が考えた擬声語や擬態語を視点ごとに色分けした付箋に書いて叙述の横に貼り、その付箋の色を見ることで、学習の途中で自分の考えの視点の偏りに気付いたり、友達との交流の際には互いの考えの共通点や相違点に気付いてその言葉を選んだ理由を話しやすくしたりする。【音の色チェック】(4, 5, 8～12時間目)

### ③ 課題解決後

まず「お話の音とその理由を書くことができたか」と「友達と一緒に考えることができたか」という二つの観点について三段階の表情で自己評価させる。それらの評価にした理由や次にしたいこと等を記述する時間を設けた後、話し合いが効果的な学び方であることを実感できるようにするために、「できた」と自己評価した子供に発言を促し記述した内容の具体を語らせ、協働のよさを周りの子供たちに広げることができるようにする。【きらきらカード・きらきら発見タイム】(5, 9, 10, 12時間目)

## 3 単元計画 (総時数 15時間)

本単元では、クイズ作りの活動を繰り返していくことで、子供たちが徐々に自信をつけながら見通しをもって学習に取り組めるようにする。クイズを考える際には、もっと楽しいクイズにしたいという思いを基に、既習の教材や図書室の本等から擬声語や擬態語を見付ける時間を設ける。こうして語彙量を増やしておくことが、子供たちにとってお気に入りの場面の様子を表す言葉を考える土台となる。そして、課題解決に向けて想像を広げながら物語を読んでいく意欲を高めることにつながると考える。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一次	<p>① 『おとうとねずみチロ』のお話を聞いて、「お話の音クイズ」をしよう</p> <p>「くんくん」等の『おとうとねずみチロ』シリーズの読み聞かせを聞き、題名から物語の内容を想像したり、内容から擬声語や擬態語を考えたりしながら「お話の音クイズを作る」という言語活動を共通理解する。</p>
	<p>②③ 自分の紹介したい本を決めよう</p> <p>様々な本を読んで、その中からお話の音クイズを作りたい本を選ぶ。楽しいクイズになるように、まずは共通教材でお話の音クイズの作り方を確かめてから自分の選んだ本でクイズを作るという学習計画を立てる。</p>
第二次	<p>④～⑨ 「おとうとねずみチロ」を読んで、お話の音クイズを作ろう</p> <p>子供たちは教科書教材『おとうとねずみチロ』でお気に入りの場面を選択し、お話の音クイズの作り方を考える。もっと楽しいクイズを作りたいという子供たちの思いから、クイズに使えるお話の音(擬声語や擬態語)の数を増やすために、既習の教材や図書室の本等からお話の音を見付ける時間を設ける。集めた言葉を分類しながら一覧にまとめていく中で、様々な感覚を使って考えていくことのよさに気付く。その後、共通教材のお気に入りの場面を想像を広げながら読み返し、お話の音クイズを考えていく。</p>
	<p>⑩ 友達と一緒に想像を広げて、お話の音クイズを作ろう (本時10/15)</p> <p>共通教材のお気に入りの場面で、お話の音クイズを作る。その際、子供たちは前時に考えたお話の音クイズの案について友達と話し合う中で、人物の行動について想像を広げながら、よりよいクイズになるように言葉を吟味していく。</p>
	<p>⑪⑫ 自分の選んだ本で、お話の音クイズを作ろう</p> <p>自分が選んだ本のお気に入りの場面について想像を広げながら読み、お話の音クイズを作る。</p>
第三次	<p>⑬～⑮ クイズ図書館で、読書を楽しもう</p> <p>子供たちが作ったクイズを本と一緒に並べ、自由に本を読んでクイズを解き合う。子供たちは、クイズの言葉が何の音なのか想像を広げながら様々な本を読み進め、読書の楽しさに気付いていく。</p>

#### 4 本時の学習指導

##### (1) 目標

お気に入りの場面の様子から想像した擬声語や擬態語について友達と話し合う中で、場面の様子や登場人物の行動をより具体的に想像し、お話の音クイズをカードに書くことができる。

##### (2) 学習指導過程

学習活動	主な子供の意識
<p>1 学習課題を確認する。 【きらきらコーナー】</p>	<p>お気に入りの場面で、お話の音クイズを作るよ。 友達と一緒に考えると、もっとたくさんの音が見付きそうだよ。</p> <p>友達と一緒に想像を広げて、お話の音クイズを作ろう</p>
<p>2 お気に入りの場面のお話の音について、友達と話し合い、クイズを作る。 【音の色チェック】 (1) 友達と話し合う。</p> <p>(2) カードに書いて、紹介する。</p> <p>3 お気に入りの本でお話の音を見付ける。</p>	<p>前の時間に考えたクイズを振り返ろう。僕が見付けたお話の音は、みんなに伝わるかな。</p> <p>僕は「びよんびよん」にしようと思うんだけど、どうかな。 私は「にこにこ」にしようと思うんだけど、何の音だと思う。</p> <p>「うれしがって」とあるから、チロのにこにこしている顔が見えたのかな。 「うれしがってとびはねると」のところで、チロが喜んでびよんびよんしている音かな。</p> <p>そうだよ。おばあちゃんに声が届いて、うれしくなって飛び跳ねていると思ったからだよ。 そうだよ。にっこり笑って、目が細くなっていると思ったからだよ。</p> <p>僕は同じ文の「まえよりもこえをはり上げていいました」のところから、「わくわく」している気持ちを考えたよ。 チロの体は小さいから、私は「びよんびよん」よりも「ちょんちょん」や「びよこびよこ」の方がいいと思ったよ。</p> <p>確かにそうだね。でも、「びよんびよん」の方が、喜んで感じる気持ちは伝わってくるかな。 なるほど。私の好きなチロは、「わくわく」という言葉の方がぴったりかもしれないな。</p> <p>友達と話し合うと、いい言葉が見付かったよ。 みんないろいろなお話の音を見付けているね。</p> <p>今日のように目や耳や手などで音を考えれば、自分のお気に入りの本でもいろんな音が見付きそうだよ。</p> <p>目で想像した言葉が多いな。耳で聞こえる音も考えてみよう。 音の一覧の中から、使えそうな言葉はないかな。</p>
<p>4 本時を振り返る。 【きらきらカード・きらきら発見タイム】</p>	<p>友達と一緒に『おとうとねずみチロ』のお話の音クイズを作ることができて、うれしかったよ。</p> <p>友達が僕のクイズを「それいいね」と言ってくれたから、うれしかったな。 チロで勉強したことを使って、自分の本でもいろんな音を考えることができたよ。</p> <p>自分の選んだお気に入りの本でも、楽しいクイズを作りたいな。</p>

(3) 授業の詳細 (支…支援員の主な動き)

前時までの子供の意識 学習活動1

導入で補助黒板を振り返り、本単元のめあてである「お話の音クイズでお気に入りの場面を紹介すること」を確認する。前時に子供たちは『おとうとねずみチロ』のお気に入りの場面から擬声語や擬態語を想像して付箋に書いており、お話の音クイズの案はもっている。本時では、これまでの「友達と話をすれば、もっとお話の想像が広がって、いろいろな音が見付かった」という経験を想起し、友達と一緒に話の音を考えたいという思いを表出させて、学習課題を設定する。【きらきらコーナー】

学習活動2

まず、交流前に、短い言葉でまとめた話合いの約束（教科書のどの言葉から考えたのかを伝えること、教科書に貼った付箋等を参考にして目・耳・手等の様々な感覚を使って考えること、アドバイスを伝えること等）を提示して確認する。その後、同じ場面を選んでいる友達と交流する。『おとうとねずみチロ』については、子供たちはお気に入りの場面を何度も読んでいたので、根拠となりそうな教科書の叙述を想起してその部分を示しながら話し合うことができると思う。どんな様子を表した音なのか考えにくい場合は、「耳で聞こえた音だよ」「この文から考えた音だよ」等のヒントを出してもらうことで、着目するところを焦点化して考えることができるだろう。その際には、使った感覚によって色分けした付箋も参考にして共通点や相違点に気づき、自分の考えを語れるようにする。(支言葉から想像を広げることが苦手な子供については、教科書の挿絵を指しながら「どんな音が聞こえるかな」「触るとどんな感じがするかな」などと、目・耳・手等のうちどの感覚を使って考えればよいのかを助言して、自分の考えを表出できるようにする) こうした活動を通して、具体的に想像を広げ、話の音を考えていくのである。【音の色チェック】

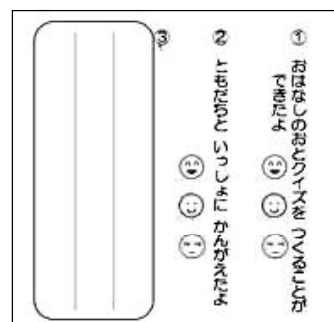
その後、友達と交流したことを基に、クイズにしたい音を再考して、その音を選んだ理由と共にカードに書く。その後、全体でできたクイズを紹介し合う時間を設ける。教師の意図的指名によって、様々な難易度の問題を出しながら、言葉から想像を広げていくことの楽しさを実感できるようにし、自分が選んだ本でも楽しいクイズを作りたいという思いを高める。

学習活動3

自分が選んだ本のお気に入りの場面を読み返し、叙述を基に考えた音を付箋に書いて叙述の横に貼っていく。付箋の色は『おとうとねずみチロ』の時と同様に、言葉を考える際に使った感覚によって色分けしておくことで、様々な感覚を使って話の音を考えようとする意識を育てたい。(支自分の力で音を考えることが難しい子供には、学習活動2と同様の支援をしたり、掲示している擬声語・擬態語の一覧を参考にするように助言したりする)

学習活動4

まず、各自で「お話の音とその理由を書くことができたか」と「友達と一緒に考えることができたか」という二つの観点について振り返る。1年生の実態から、顔の表情のどれかに丸を付ける3段階の自己評価と、その評価にした理由や次にしたいこと等を記述する方法で行う。「お話の音クイズを作ることができた」という喜びや満足感を出させた後、子供の発言に対して、教師がさらにできた理由やよかったこと等を問い返すことで授業での具体的な場面について語らせ、学び方のよさや協働のよさを表出させる。最後には、次時にしたいことを尋ねて全体で共有し、本時の学びを生かせば、自分の選んだ本でも楽しいクイズを作れそうだという見通しをもたせる。【きらきらカード・きらきら発見タイム】



【きらきらカードの内容】

(4) 評価

お気に入りの場面の様子を表す擬声語や擬態語について友達と話し合い、お話の音クイズに出す言葉を再考して、理由と共にカードに書いている。【方法：発言・ワークシート・カード】